

# 深川市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

深川市は、北空知圏域をはじめとする広域連携によるまちづくりを推進しており、周辺市町を結ぶバスや鉄道は、北空知圏域の住民を中心とした通学や通院、買物等の足として重要な役割を果たしている。

市内循環線は、JR深川駅、各病院、公共施設、商業施設などの主要施設や、まちなかの住宅密集地などを結び、市内移動の基幹的な役割を果たすとともに、周辺市町と深川市を結ぶ広域路線に接続する重要な位置づけにある。

また、今後は人口減少や少子高齢化が加速し、利用者が減少していくことが予想される中で、持続可能な公共交通網の形成を図るためには市内循環線は極めて重要な路線であることから、利用実態に応じた形に効率化したうえで維持・確保していく必要がある。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

■ 令和7補助年度利用者数:20,129人以上

人口減少や少子高齢化などの影響から、今後大幅に利用者数が増加することは見込んでいないため、利用実態に合わせた運行の最適化により利用者の確保を行い、緩やかな減少を目指します。

## 令和7年度事業概要

【系統名】市内循環線(深川西高校方面先回り、あけぼの方面先回り)

起点:深川市立病院前

終点:深川駅前

運行回数:深川西高校方面先回り 平日:4便 土日祝:3便 あけぼの方面先回り 平日:4便 土日祝:3便

運賃:一律240円

## 地域公共交通の現況

- ・ JR函館本線、留萌本線  
深川駅、納内駅、北一已駅
- ・ 空知中央バス(株)  
広域5路線、市内4路線
- ・ 北海道中央バス(株)  
都市間バス1路線
- ・ 道北バス(株)及び沿岸バス(株)  
広域1路線
- ・ ジェイ・アール北海道バス(株)  
広域1路線
- ・ タクシー事業者2社  
音江ハイヤー(有)、(有)納内ハイヤー

## 協議会開催状況

- ▼第1回会議 令和7年6月26日(令和7年度)  
・地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について
- ▼第3回会議 令和7年12月19日(令和7年度)  
・地域内フィーダー系統確保維持計画の評価について

# 令和7補助年度事業の実施状況

## 1) プロセス、創意工夫

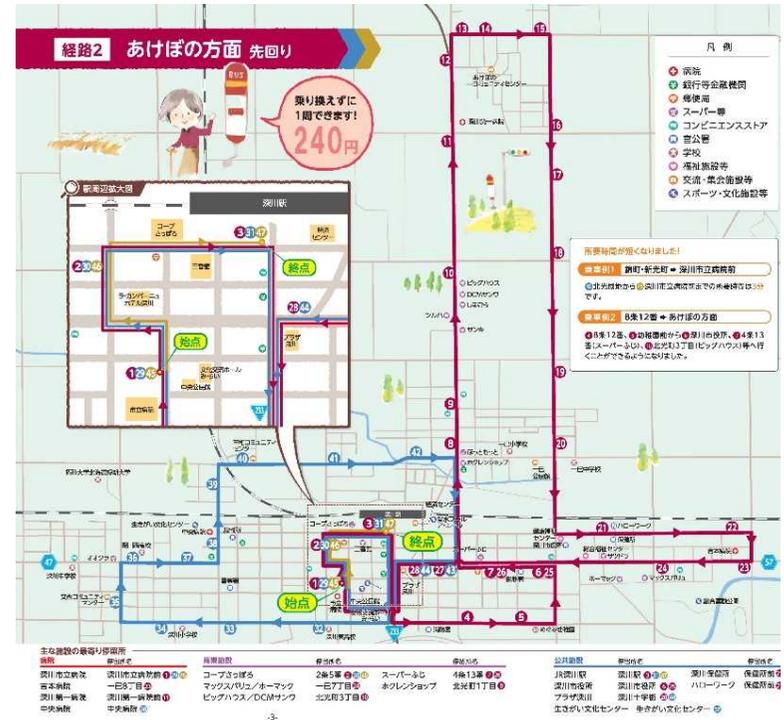
- ・令和2年4月1日より、回り方を2通りにしたことにより、利用者が目的地としている場所まで短時間で移動できるようになった。  
また、令和3年4月1日には、【①循環線を通学の時間帯に対応②土日祝の各系統1便目の運休】のダイヤ変更を行った。
- ・令和7補助年度においては、昨年度に引き続き、運行回数(費用)を抑えつつ、「循環線」としては令和4年に次ぐ利用者数を確保することができた。
- ・満70歳以上の市民を対象とした高齢者バス利用料金助成事業の継続実施により、利用促進を図った。
- ・市イベント「スプリングフェスタ」の一環として実施していた「路線バス乗り方教室」は、同イベント内の他事業と参加者を取り合いになってしまうことや、事業効果が分かりづらいことなどから実施しなかった。
- ・市内中心部で実施されるイベントに合わせて「循環線無料Day」を実施し、普段バスを利用することが少ない方々などの利用促進や同日実施されているイベントの利用促進に繋げた。

## 2) 運行系統

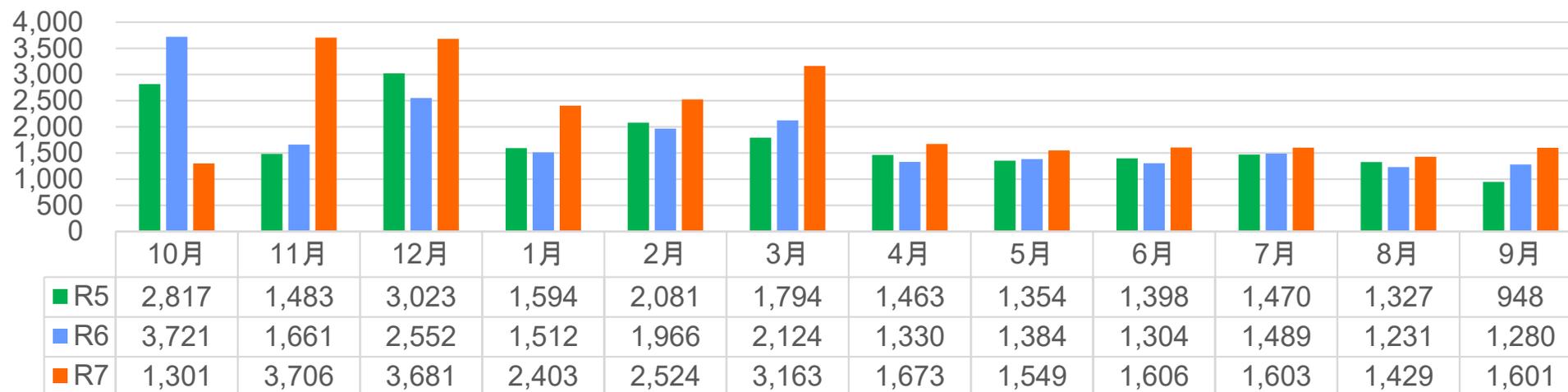
### ▼深川西高校方面先回り



### ▼あけぼの方面先回り



### 3) 利用実績

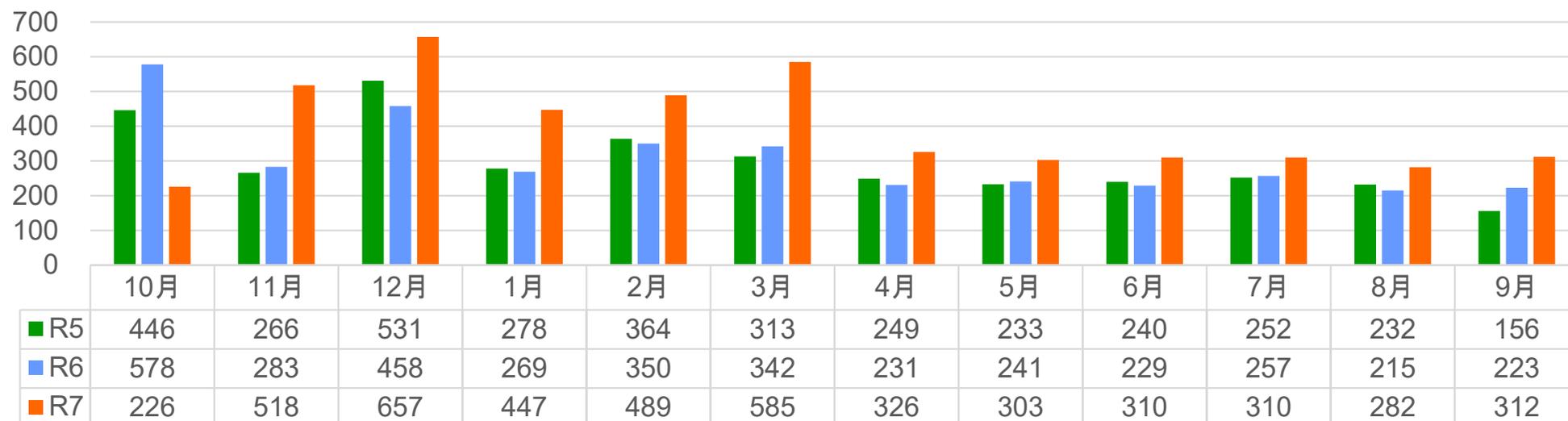


・ R 5 (R4.10~R5.9) 年間20,752人

・ R 6 (R5.10~R6.9) 年間21,554人

・ R 7 (R6.10~R7.9) 年間26,239人

### 4) 収入実績



・ R 5 (R4.10~R5.9) 年間3,559千円

・ R 6 (R5.10~R6.9) 年間3,676千円

・ R 7 (R6.10~R7.9) 年間4,764千円

## 5) 事業実施の適切性

利用者増加に向けた各種施策を適切に実行し、利用実績・収入実績ともに昨年度を大きく上回る結果となった。しかしながら、各種施策の効果が直接今回の実績に結びついているかどうかは判断が難しく、今回の実績の要因が何かというところまで分析できていないので、今後は事業結果が実績にどのように結びついているのかといったところも確認できるような事業内容を組み立てるべく、必要に応じた事業内容の見直し、適切な事業実施に努めてまいりたい。

## 6) 目標・効果達成状況

### 【目標】

令和7補助年度利用者数: 20,129人以上

令和7補助年度収支率: 21.3%

令和7補助年度行政負担額: 9,377千円以下

### 【実績】

令和7補助年度利用者数: 26,239人

令和7補助年度収支率: 22.6%

令和7補助年度行政負担額: 13,142千円

### 【達成状況】

人口減少等の影響があったが、「高齢者バス利用料金助成事業」や「路線バス乗り方教室」の実施による一定程度の効果により、利用者数、収支率については令和6補助年度実績及び目標値を上回る結果となった。ただし、事業実施の効果を明確にするものはなく、行政負担額については目標値を大きく上回る実績となった。

## 7) 事業の今後の改善点

今年度は利用実績・収入実績ともに昨年度を大きく上回る結果となったが、人口減少や運賃改定等の影響により、今後利用者数が減少していく可能性は十分に考えられる。また、昨今の乗務員不足等により路線存続が危ぶまれる可能性もあることから、今後は事業内容の見直しだけでなくAIオンデマンド交通のような利便性を最大限確保しつつ費用対効果が見込めるものに変えていくといった抜本的な見直しも視野に利便性向上及び収支改善に努めていく。

## 8) 地方運輸局等における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・利用者数・収支率の目標を上回ったが、行政負担額の目標を達成することができなかつたため、今後も地域公共交通計画に基づき、更なる利用促進策の取組を継続するとともに、持続可能な公共交通を維持する観点から、行政負担額の改善に対する取組についても検討いただきたい。